
わがまマネージャー日記

なかなか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わがまマネージャー日記

【Nコード】

N8058J

【作者名】

なかなか

【あらすじ】

マネージャーって大変だよねって話です

マネージャーです…

これは、ある事務所に入社したばかりのボクのマネージャーとしての仕事を書いた日記である。

ボクはマネージャーになり初めての仕事は、売れてるとは言えないし、売れてないとは言えないアイドルグループだった。

自己紹介をするために、事務所の会議室に入るとテレビで見っていた人達が椅子に座っている。

「山田太一です
ヨロシクお願いします」

軽く会釈すると、リーダーである大島が「ヨロシクな」と言いながら二百円を渡してきた。

太一は子供じゃないんだけどと思いながら「ありがとうございます」と言った。

大島は軽く笑いながら「あげるんじゃないかってお茶買ってきてお釣はあげたるから」
と言って椅子に座った。

「はい…」と言って太一は会議室を出た。

太一は事務所の廊下を一人で歩いていた。
昼になると廊下の人通りが少なくなる。

「自販機ねえや…」

段々速足になる。

遠くに自販機が見えた、誰かが買っている姿が同時に見えた。太一が近付いていくと見覚えがある人影が見える。

「大島さん？」

「あゝ新人くん遅いから自分で買ったわ」

お釣をポケットにしまつて会議室に戻って行つた。

太一も慌てて後をついていく。

会議室までの道のりで会話がなく気まずい空気が二人を包む。

太一は二百円をどうすればいいのか悩んでいた。

「なあ新人くん」

気まずい空気を破って大島が聞く。

太一は驚きながら「なんですか？」と聞き返す。

「なんでマネージャーになろうと思ったん？」

太一はちよつと恥ずかしそうに「笑わないでくださいね…」と言つた。

「なんや、アイドルと付き合うつもりやったんか？」

「違いますよ！」

顔を真っ赤にして太一は首を振る。

じゃあ何やねんと言いながら歩き続ける。

「実は……養成所あるじゃないですか？」

「マネージャーのやろ？」

それ出たんやったんか？」

「はい、芸人科と入り間違えました」

大島が立ち止まる。

太一は気付かずに歩き続け、大島を抜いてから気付いて止まった。大島の顔は笑いを必死でこらえて真っ赤に染まっていた。

太一は、笑っていいですよと言うように手を上げた。すると、声こそは出さないが腹を抱えて笑っていた。

会議室のドアの前で笑い終えて「まあ、新人くん頑張ってやウチみたいに明るいやつだけやないしな」

ドアを開けて会議室に入っていた。

太一はファイルを開いて「マネージャーです……」と呟いてドアを開けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8058j/>

わがまマネージャー日記

2010年10月10日15時40分発行